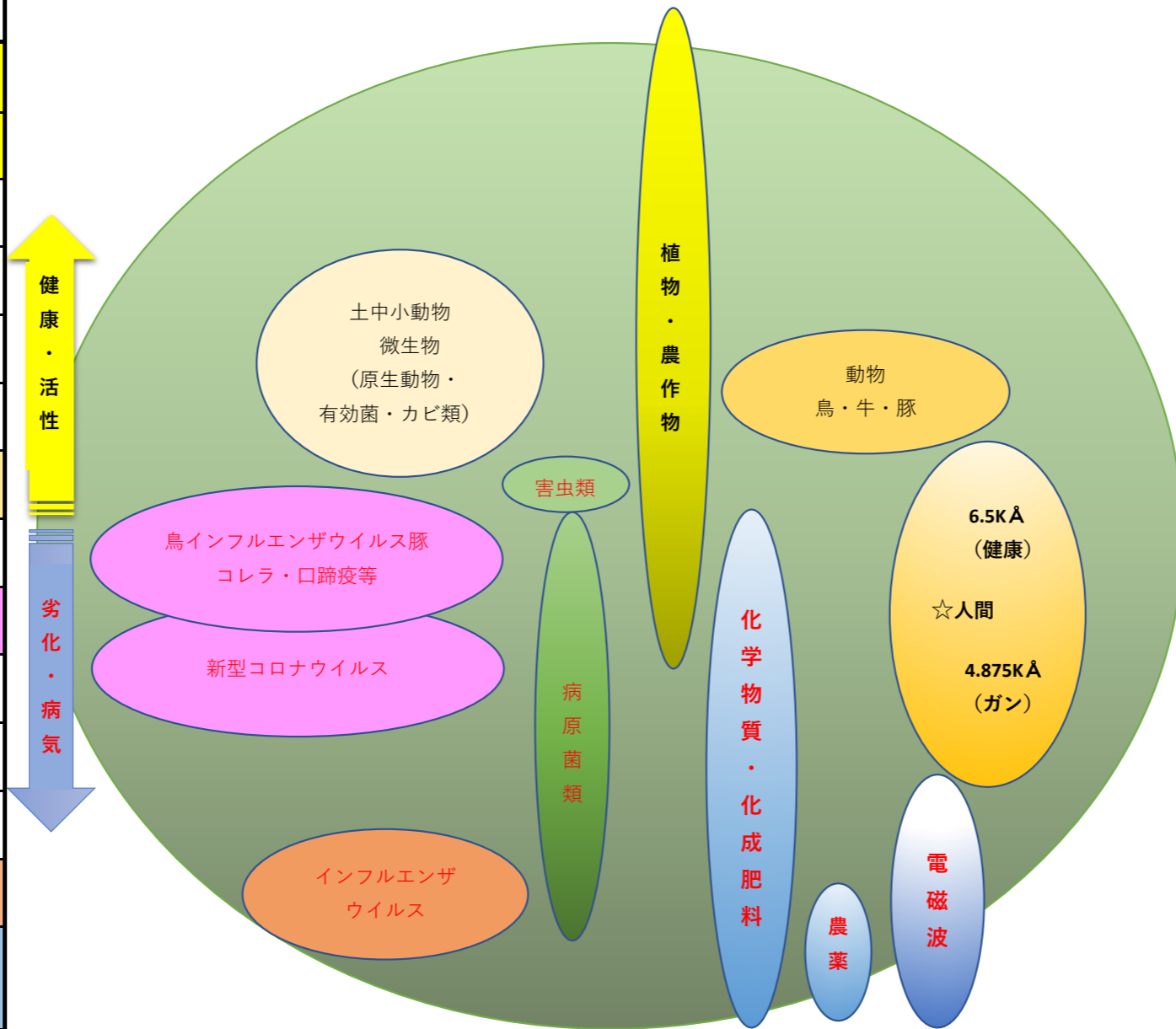


現代における四圍の生態系（環境）とエネルギー位置関係の概念

【自然との共生のための考察と本質へのアプローチ】 2021年1月4日

基本放射エネルギー	主な対象生物等
200K Å 以上 (最低の目安)	LOA商品及び応用商品を使用した限定的空間、物質等
24K Å ~ 150K Å	LOA応用の農作物
12K Å ~ 15K Å	葉草類
8.5K Å	穀類
8.0K Å	果実、果菜類
7.0K Å	葉菜類 動物
6.5K Å	人間 (健康)
6.0K Å	低いエネルギーの場を好む虫、野生動物寄生ウイルス
5.9K Å 5.8K Å	新型コロナウイルス(O) 病原菌類・新型コロナウイルス(δ)
5.5K Å (放射エネルギー)	人間 (生活習慣病と投薬) 高血圧症、糖尿病、心疾患
4.9K Å (放射エネルギー)	人間 (ガン疾患)
4.7K Å	低周波電磁波
4.2K Å	インフルエンザウイルス
3.8K Å	高周波電磁波 (4Gスマホ) 農業 (3~4K Å)
2.7K Å	高周波電磁波 (5G)



今までのインフルエンザウイルスの位置 (4.2K Å) と新型コロナウイルスの位置 (5.8K Å) の違いが気になります。同じ環境条件下に居て、罹る人、罹らない人がいるのはこの放射エネルギーの差にあると思われま。感染力の強さも5.8K Å前後に落ちた人の中で広まったと考えられます。感染のスピードと短期間に全世界に広がったことを考えると、今回の新型コロナウイルスのエネルギー位置が人のエネルギー位置に近いという特異なことがその原因の大きな一つではないかと思われま。

ウイルスは太古の昔からそこにいるだけであり、人間の方が新型コロナウイルスの領域に侵入してしまったと言えます。自己免疫力が下がったために、入ってはいけない領域に足を踏み入れてしまったと考えられます。

※ウイルスとはラテン語で「毒」

きっかけは別 (中国・武漢) にあるとして、人間の免疫力を下げる共通の原因があるのではないのでしょうか。人間社会における近代～現代文明の特徴である科学技術の発展に伴い拡大の一途を辿っている 化学物質に続き、電気、電子機器 (特に無線) から発せられる有害電磁波がこの地球を覆っています。この流れは一向に止まる様子はなく、それどころか新型コロナウイルスの蔓延対策としての滅菌・消毒の世界的奨励、そこに新世代通信規格の5G機器類の普及 (遠隔教育、テレワーク等) が重なり、益々人も動物も植物もエネルギーが奪われていきます。これは生命体の免疫力の低下=機能不全化を意味しています。 これまでの病気 (感染症含む) や異形遺伝子による障害等の本質的原因の多くがこの点にあることを見止め、的確な対策を講じないと 『**絶滅危惧種の人類**』 となりかねません。

※基本放射エネルギー ≠ 放射エネルギー
 ※6.0K Å 以下の数値は凡その数値 (種類や状態、範囲が広すぎるため)
 ※動物 (動くもの) は基本放射エネルギー以上にはならない

・ K Å = キロ (1000) オングストローム、1 Å = 1mm / 1000万 という (光の) 長さの単位
 ・ 放射エネルギー: その環境の中に存在する生命体と物質 (+L33:M35有形、無形にかかわらず) は放射エネルギーを出している。
 ※自然界ではそれぞれが固有の基本放射エネルギー (正常、健康であるときの放射エネルギー) で棲み分けされている。
 ※環境汚染のため、殆どすべての食物、人の放射エネルギーは落ちていていると思われる。・・・なぜ落ちていているのか? ここが問題!!

一病原菌はたいてい6.5K Å よりかなり低い値を示す事実から、**病原菌が侵すことのできる人間は病原菌の波長に細胞が共振を起こすところまで活力が低下したものであり、これに反して健康な活力をもった体は病原菌の攻撃にも動じないままでいるのだと推論している。** これは調律された2台のピアノや音叉に似ているー
 一化学肥料によって放射 (エネルギー) が低下してしまった植物がなぜ病害虫の攻撃を受けるのかということも、同じ原理で説明できることは疑いないー
 一体に精力をつけ健康になりたいのなら、人間は自分自身の正常値 (6.5K Å) より高い放射を出す果物、野菜、穀物、木の実、(海) 鮮魚を食べよー (フランスの電気工学技士 アンドレ・シモネトン/植物の神秘生活より)

☆上記の生態系の秩序やエネルギーの位置関係から、どうしたら『**現代社会の中でうまく、そして安心して (未来に向かって) 生きていく**』ことができるのか? のヒントがあります。対処療法的思考や行動から、問題の本質的的根本的原因に遡及して、その原因に的確に実効的に手を打つことです。打つ手は無限にあります。その一例として、
 ☆添加物や農薬の影響の少ないエネルギーの貴い食生活へのシフトや化学物質や電磁波のマイナスの減衰対策を調べた環境での暮らし (生活・仕事) 。
 ☆具体例として付け加えるなら、安心して食せるもの全てをできるだけ余すことなく丸ごと (玄米、野菜、果物の皮) 食べ、更に、発酵食品 (味噌、醤油、納豆、漬物等) を取り入れた食生活 (文化) へ戻る。